

下部消化管内視鏡検査についての説明書

1. 検査の目的

下部消化管内視鏡検査は、大腸の病気(ポリープや癌、潰瘍、炎症など)の有無を調べるために肛門から内視鏡を入れて直腸から大腸全体を観察する検査です。

2. 検査の注意点

- ・下部内視鏡は通常午後になりますので、検査当日は朝食と昼食をとらないでください。
- ・検査前日にお渡しする下剤を飲んでいただきます。当日、喉が渇く方は水を飲んでいただいても構いません。
- ・外来での検査の場合、検査当日は指定した時間までに来院していただき、前処置の後、午後から検査開始となります。
- ・入院での検査の場合、病棟の指示に従ってください。
- ・検査前日はなるべく消化のよい軟らかいものをお召し上がりください。
- ・当日は鎮静剤等を使用する場合がありますので、自動車、オートバイ、自転車等、自分で運転して来院することは避けてください。
- ・内服薬をお飲みの方は、事前説明の指示に従ってください。特に抗血栓薬(バイアスピリン、ワーファリン等)は必ず申し出てください。

3. 検査の方法

カメラ挿入前に必要があれば、鎮静剤や鎮痛薬を使用し検査を行います。

検査は、肛門から内視鏡を入れて直腸から大腸の一番奥(盲腸)までの腸の中を調べます。

時間は約20分程度ですが、病気があった場合などには、病変部から生検(顕微鏡で調べるための小さな組織をとるなどの処置)を行いますので、もう少し時間のかかる場合もあります。活動性の出血がある場合、止血術を追加することもあります。また、外来での施行の場合、ポリープが5mm前後までの場合、必要に応じ切除することがあります。大きさが大きい時は、入院して治療することもあります。検査中は、小さな病変を逃さないために腸のなかに空気を入れて腸をふくらませますので、検査中や検査の終わった後に、おなかの張った感じや軽い痛みを感じる場合がありますが、多くの場合は、安静やトイレでガスを出すことで楽になります。

4. 合併症

下部消化管内視鏡検査による合併症は、麻酔薬によるショックや過鎮静、出血、穿孔などがあげられます。検査による合併症(穿孔、出血など)の起こる可能性は全国集計で0.012%で、死亡率は0.00082%でした。(*1)万が一、検査によって腸に穴があく(穿孔)などの合併症が起きた場合には、他科とも協力し、外科手術を含めた、最善を尽くして対応します。検査の後に強い腹痛や便に大量の血液が混ざる場合にはすぐに申し出てください。また自宅に帰られた後にこのような症状が現れたときには、夜間でも結構ですので、病院までご連絡下さい。

(*1)日本消化器内視鏡学会雑誌 2010:Vol 52(1)

5. 感染症検査

下部消化管内視鏡検査に先立ち、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、梅毒、HIVウイルス等の感染症の有無を確認する血液検査を受けて頂くようお願い致します。なお、感染症検査の実施にあたっては、患者様のプライバシーを厳守します。

6. その他

病状に応じて、繰り返し検査が必要になることがあります。

連絡先 公益財団法人東京都保険医療公社 荏原病院
TEL 03-5734-8000 (救急室)

同意書

内視鏡検査 予定日 月 日

患者ID
患者氏名
生年月日

私は、上記検査・治療の目的、方法、必要性、危険性等について別紙のとおり説明致しました。
また、万一、偶発症・合併症が発生した場合には他科とも協力し、最善を尽くして対応します。

年 月 日

公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院 医師 _____

医師 _____

立会い者（職種） _____

私は、現在の病状及び下部消化管内視鏡検査の必要性とその内容、これに伴う危険性などについて十分な説明を受け、理解しましたのでその実施に同意します。なお、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、適切な処置を受けることについても同意します。

年 月 日

同意者
患者様のお名前(自署) _____

御家族のお名前(自署)
(続柄 _____)

公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院長 殿

注: 患者様が年少者やご自身で意思表示が出来ない場合には、家族等のみによる同意でも結構です。

< 図 示 >

下部消化管内視鏡検査についての説明書

1. 検査の目的

下部消化管内視鏡検査は、大腸の病気(ポリープや癌、潰瘍、炎症など)の有無を調べるために肛門から内視鏡を入れて直腸から大腸全体を観察する検査です。

2. 検査の注意点

- ・下部内視鏡は通常午後になりますので、検査当日は朝食と昼食をとらないでください。
- ・検査前日にお渡しする下剤を飲んでいただきます。当日、喉が渇く方は水を飲んでいただいても構いません。
- ・外来での検査の場合、検査当日は指定した時間までに来院していただき、前処置の後、午後から検査開始となります。
- ・入院での検査の場合、病棟の指示に従ってください。
- ・検査前日はなるべく消化のよい軟らかいものをお召し上がりください。
- ・当日は鎮静剤等を使用する場合がありますので、自動車、オートバイ、自転車等、自分で運転して来院することは避けてください。
- ・内服薬をお飲みの方は、事前説明の指示に従ってください。特に抗血栓薬(バイアスピリン、ワーファリン等)は必ず申し出てください。

3. 検査の方法

カメラ挿入前に必要があれば、鎮静剤や鎮痛薬を使用し検査を行います。

検査は、肛門から内視鏡を入れて直腸から大腸の一番奥(盲腸)までの腸の中を調べます。

時間は約20分程度ですが、病気があった場合などには、病変部から生検(顕微鏡で調べるための小さな組織をとるなどの処置)を行いますので、もう少し時間のかかる場合もあります。活動性の出血がある場合、止血術を追加することもあります。また、外来での施行の場合、ポリープが5mm前後までの場合、必要に応じ切除することがあります。大きさが大きい時は、入院して治療することもあります。検査中は、小さな病変を逃さないために腸のなかに空気を入れて腸をふくらませますので、検査中や検査の終わった後に、おなかの張った感じや軽い痛みを感じる場合がありますが、多くの場合は、安静やトイレでガスを出すことで楽になります。

4. 合併症

下部消化管内視鏡検査による合併症は、麻酔薬によるショックや過鎮静、出血、穿孔などがあげられます。検査による合併症(穿孔、出血など)の起こる可能性は全国集計で0.012%で、死亡率は0.00082%でした。(*1)万が一、検査によって腸に穴があく(穿孔)などの合併症が起きた場合には、他科とも協力し、外科手術を含めた、最善を尽くして対応します。検査の後に強い腹痛や便に大量の血液が混ざる場合にはすぐに申し出てください。また自宅に帰られた後にこのような症状が現れたときには、夜間でも結構ですので、病院までご連絡下さい。

(*1)日本消化器内視鏡学会雑誌 2010:Vol 52(1)

5. 感染症検査

下部消化管内視鏡検査に先立ち、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、梅毒、HIVウイルス等の感染症の有無を確認する血液検査を受けて頂くようお願い致します。なお、感染症検査の実施にあたっては、患者様のプライバシーを厳守します。

6. その他

病状に応じて、繰り返し検査が必要になることがあります。

連絡先 公益財団法人東京都保険医療公社 荏原病院
TEL 03-5734-8000 (救急室)

同意書

内視鏡検査 予定日 月 日

患者ID
患者氏名
生年月日

私は、上記検査・治療の目的、方法、必要性、危険性等について別紙のとおり説明致しました。また、万一、偶発症・合併症が発生した場合には他科とも協力し、最善を尽くして対応します。

年 月 日

公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院 医師 _____

医師 _____

立会い者 (職種) _____

私は、現在の病状及び下部消化管内視鏡検査の必要性とその内容、これに伴う危険性などについて十分な説明を受け、理解しましたのでその実施に同意します。なお、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、適切な処置を受けることについても同意します。

年 月 日

同意者
患者様のお名前(自署) _____

御家族のお名前(自署)
(続柄 _____)

公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院長 殿

注: 患者様が年少者やご自身で意思表示が出来ない場合には、家族等のみによる同意でも結構です。

< 図 示 >